はしがき

第1章　我が国の安全神話は崩壊したのか

1　日本人の安全意識 …… 1

2　我が国の戦後における犯罪情勢の推移 …… 2

1　戦後の混乱期における各種犯罪多発時代　3

2　昭和30年代から40年代にかけての粗暴犯罪多発時代　4

3　少年非行が激増した昭和50年代以降の時代　8

3　我が国の低犯罪率を説明する要因 …… 10

1　社会的・経済的要因　11

2　法的・刑事司法運営的要因　13

3　文化的要因　15

4　人口統計学的・地理的要因　17

5　小　　括　18

4　平成の時代の犯罪情勢 …… 19

1　諸外国との犯罪動向の比較　21

2　気になる中高年の犯罪　27

5　安全神話は崩壊したのか …… 33

第2章　欧米の都市犯罪研究

1　問題の所在 …… 39

2　欧米の都市犯罪研究の概観 …… 40

3　20世紀の生態学的研究 …… 43

4　方法論上の問題点 …… 48

1　集成的なレベルのデータを用いること　48

2　都市の構造上の変数　48

3　サンプルとなった都市と都市犯罪研究の限界　49

5　我が国での研究の動向 …… 50
6　都市の特徴と犯罪促進要因としての匿名性 …… 53
1　匿名性という用語の意味するもの　53
2　犯罪・非行要因としての匿名性　54
3　匿名化社会に特徴的な犯罪類型　55
4　匿名化社会と無関心的対応　57
7　匿名化社会の今後の課題 …… 58

第3章　日常活動理論の体系的地位

1　はじめに …… 63
2　犯罪統計の解釈原理としての日常活動理論 …… 63
1　暴力の原因と予防に関する全米委員会　63
2　犯罪活動の構造　65
3　ホーリの人間生態学理論から選択された概念　66
4　直接的な接触による略奪的侵害行為の最低限の要素　67
5　違法行為の生態学的性質　68
3　現存する研究と日常活動理論との関係 …… 70
1　記述的分析　70
2　犯罪の動向及び周期についてのマクロ・レベルの分析　72
3　日常活動理論のミクロ・レベルでの前提　74
4　実証的評価 …… 75
1　犯罪の状況及び発生地　75
2　ターゲットの適合性　77
3　家族活動と犯罪率　79
5　日常活動構造の動向と犯罪率の動向の変化 …… 82
1　人間活動様式の動向　82
2　関連した財物の動向と人間活動様式の関係　84
3　商業施設における関連する動向　85
4　犯罪動向の構成　86
6　日常活動理論の意味するもの …… 87
7　おわりに …… 90

第4章　アメリカ合衆国の野球量刑

1　はじめに …… 95
2　スリーストライク法の概要 …… 96
3　スリーストライク法とその関連法 …… 97
4　スリーストライク法の一般的効果 …… 99
　1　カリフォルニア州の制度の分析　100
　2　カリフォルニア州立法分析局の評価　101
　3　ネバダ州のスーパー常習犯罪者法の分析　104
　4　テキサス州における連邦真実量刑補助金の評価　104
5　刑事司法システムへの影響 ……105
6　刑務所におけるスリーストライク法の効果 ……106
7　スリーストライク法の評価 ……109
8　スリーストライク法特別委員会の結論と勧告 ……111
9　おわりに ……113

第5章　ニュージーランドにおける青少年司法の歴史

1　はじめに ……117
2　国際的視座からする過去100年間の青少年司法の歴史 ……118
　1　少年裁判所の創設　118
　2　福祉モデル　119
　3　公正モデル　122
3　ニュージーランドの経験 ……123
4　ニュージーランドにおける福祉モデル ……126
　1　1974年法　127
　2　1974年法に関する諸問題　129
5　改革へのプロセス ……134
　1　1984年における展望　135
　2　1986年の児童及び青少年法案　137
　3　1987年の特別調査委員会　138
　4　特別委員会の再調査　141

6 おわりに ……145

第6章 アメリカにおける刑務所人口の増加とその要因

1 はじめに ……149
2 アメリカにおける拘禁刑の動向 ……152
3 拘禁率と薬物、人種、民族性およびジェンダー ……156
4 人種と「薬物との戦い」政策に起因する問題 ……160
5 ジェンダーと拘禁刑 ……169
6 刑務所と受刑者の状態 ……177
1 強姦および性的虐待 178
2 身体的虐待 178
3 劣悪な環境と医療措置の欠如 179
7 おわりに ……187

第7章 アメリカの民営刑務所の現状と課題

1 はじめに ……199
2 刑務所の民営化の背景 ……200
3 民営刑務所の発展過程 ……201
4 民営刑務所の現状 ……205
5 民営刑務所に関する実態調査 ……209
1 連邦議会の提案 209
2 調査対象 210
3 調査結果 211
4 民営刑務所の一般的な特徴 212
5 訓練の基準と方法 213
6 拘禁の基準と方法 214
7 被収容者の分類 214
6 民営刑務所の課題 ……214
7 おわりに ……219

第8章　英米における受刑者暴力の解消策

1　はじめに ……223
2　刑務所内暴力に関する研究 ……224
3　非暴力による紛争処理 ……226
　1　社会的文脈　227
　2　規範と態度　228
　3　紛争処理　228
4　予防を阻害する諸要因 ……233
5　人間の基本的欲求と暴力の周期 ……238
6　安全な刑務所の創出 ……243
7　おわりに ……253

第9章　破れ窓理論の基本的枠組と犯罪防止策

1　はじめに ……257
2　徒歩によるパトロールの重要性の認識 ……258
3　犯罪への不安感と警察官による秩序維持の機能 ……260
4　地域社会の崩壊と警察の役割の変遷 ……268
5　街路における警察活動 ……274
6　地域社会の利益と警察の法執行の意義 ……277
7　おわりに ……287

第10章　世界に誇れる更生保護制度

1　更生保護とは何か ……293
2　更生保護制度の歩み ……294
3　その成立過程 ……295
　1　戦後の更生保護制度の沿革　295
　2　更生保護事業法の制定　296
4　更生保護施設の現状と課題 ……299
　1　更生保護施設の現状　299
　2　更生保護施設の課題　301

5　世界で注目される保護司制度 ……304
1　保護司制度の淵源　305
2　改正保護司法の要点　306
6　幅広い協力組織 ……310
1　BBS 運動とその組織　310
2　更生保護女性会　317
3　協力雇用主の組織　322
7　制度 50 年の実績と新世紀への役割 ……324

初出一覧
索　　引